

経営比較分析表（平成29年度決算）

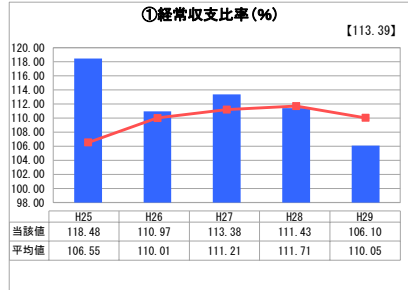
熊本県 八代生活環境事務組合（事業会計分）

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員 その他
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	81.92	18.87	2,700	

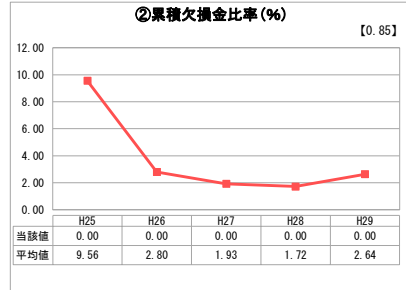
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
26,488	403.86	65.59

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

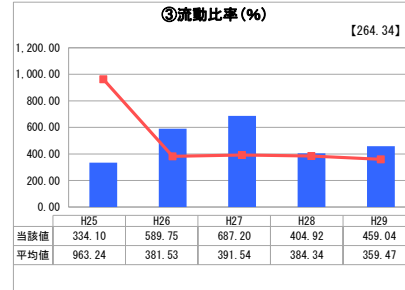
1. 経営の健全性・効率性



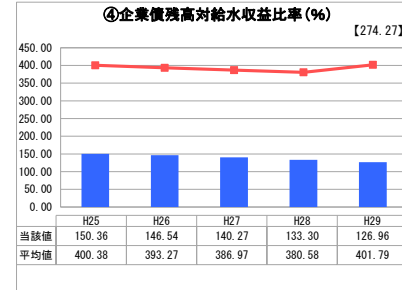
「経常損益」



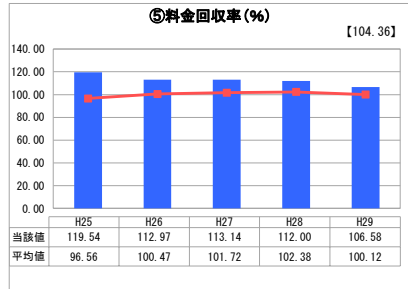
「累積欠損」



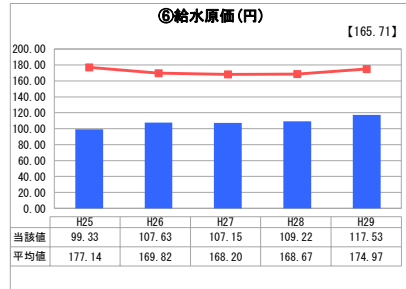
「支払能力」



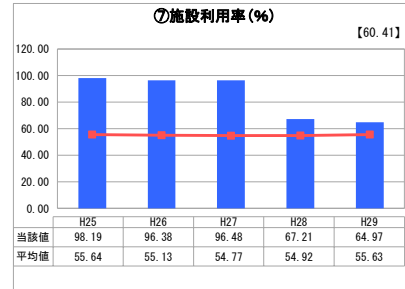
「債務残高」



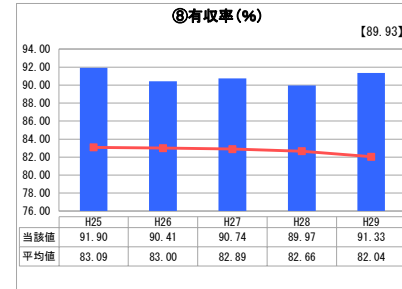
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

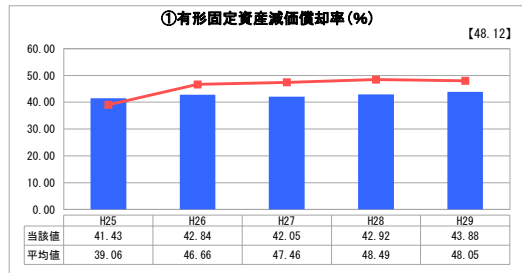


「施設の効率性」

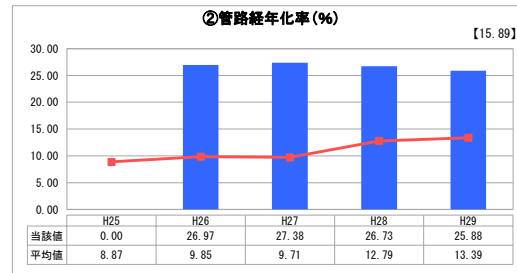


「供給した配水量の効率性」

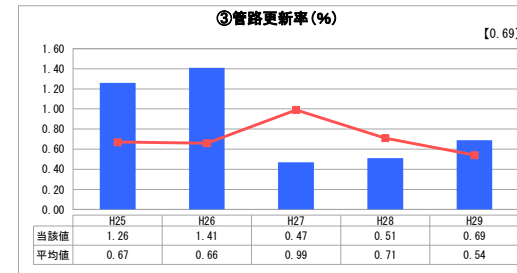
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、類似団体平均値を下回ったものの、100%を超えており、黒字経営を維持しています。累積欠損金も発生していません。料金回収率も100%を上回っているため、給水に係る費用が料金収入によって賄えているといえます。

流動比率は、流動資産が流動負債を大きく上回っているため、十分な支払能力があるといえます。

企業債残高対給水収益比率は、減少傾向で推移しており、類似団体との比較でも低い数値を保っています。

給水原価は、類似団体や全国平均に比べて低い水準となっておりますが、少しずつ上昇傾向にあります。

施設利用率は、平成28年度に施設能力の数値を修正したため、大幅に減少しましたが、水源である水川ダムの水権利の範囲内での適切な運用を行っております。

有収率は、類似団体や全国平均に比べ高い数値になっており、適切な維持管理を行えていることが給水収益に反映しています。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率は、類似団体や全国平均値を上回っています。これは、平成28年度から浄水場の耐震化工事を6ヶ年かけて施工中であり、その後管路の更新事業の計画に移っていくためです。中でも基幹管路については、順次計画的に更新を行っており、管路更新率はわずかながら上昇傾向にあります。

全体総括

現時点では、経営の健全性及び効率性については概ね確保できているといえますが、今後給水人口の減少等により給水収益の増加は見込めない一方で、老朽化した施設や管路の更新費用は増加していくと予測されており、厳しい財政状況となっていくことが見込まれます。このような中で、将来のために十分な財源を確保しておかなければならず、計画的かつ効率的な施設の更新、更なる経費の削減、適正な時期での水道料金の改定等を検討・計画していく必要があります。これらの内容をまとめた中長期的な基本計画である経営戦略を平成32年度に策定し、安定した経営を継続できるよう努めていきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。